

2017年度(平成29年度)活動報告

I. セミナー

テーマ	講師(所属機関)	司会	期日	主催者	共催者
“Beyond the Military: The Natural Resources Exploration in Maritime East Asia in the 1970s”	Kuan-jen Chen (陳冠任、ケンブリッジ大学歴史学部博士候補)	川島 真	2017年 6月1日	ASNET	CPAS
“Guam to Palawan: Opposing Narratives of Vietnamese Repatriation 1975 and 1995”	Jana K. Lipman (Tulane University)	橋川健竜	2017年 6月5日	CPAS	
“Race, Refugees and the Present Crisis”	Eric Tang (The University of Texas at Austin)	矢口祐人	2017年 6月12日	CPAS	
“Hidden in Plain Sight: What our Social Institutions Cannot See”	Samuel Imbo (Hamline University)	橋川健竜	2017年 6月27日	CPAS	
“Bourdieu in Bondi?: Culture, Class and Distinction in Contemporary Australia”	David Carter (Visiting Professor at CPAS / The University of Queensland)	西崎文子	2017年 7月12日	CPAS	
“Bound to Lead? A Critical Examination of the US-led International Order” “Contested Boundaries: Federal, State, and Local Immigration Powers and Immigrant Rights in the 21st Century”	三牧聖子 (高崎経済大学) 小田悠生 (中央大学)	橋川健竜	2017年 11月12日	CPAS	
“Unpacking the Study of Japanese Immigration: Crossing the Geographical and Academic Borders”	Kaoru Ueda (Curator of the Japanese Diaspora Initiative, Hoover Institution at Stanford University)	川島 真	2017年 12月20日	基盤研究B 「中国のアジア外交——歴史・理念・政策」/ASNET	CPAS
ブックトーク “Contraceptive Diplomacy: Reproductive Politics and Imperial Ambitions in the United States and Japan”	竹内愛子 (Stanford University)	矢口祐人 今井祥子	2018年 1月10日	多文化共生・統合人間学プログラム (IHS)	CPAS
戦略的パートナーシップ 大学プロジェクト オーストラリア国立大学— 東京大学共同セミナー “Questioning Methods, Theory, and Practice in History and Politics”	Justin Bruner (ANU) Keith Dowding (ANU) Maria Nugent (ANU) Yujin Yaguchi (UTokyo)	西崎文子 井上 彰	2018年 1月19日	CPAS	基盤研究C 「カタストロフィの分配的正義論 (代表: 井上彰)

II. シンポジウム等

CPAS創設50周年記念公開シンポジウム

「アメリカは今 歴史から政治へ」

Looking at the Present from the Past: The Transformations of Political Culture in the United States

日時：2017年11月12日（日）13:30-17:00

場所：東京大学駒場キャンパス18号館1階ホール

報告：David Greenberg (Rutgers University)

“An Intellectual History of Trumpism”

Natalia Molina (The University of California, San Diego)

“Understanding Race as a Relational Concept: What’s at Stake in Seeing Ourselves in Each Other’s Histories”

Michael Adas (Rutgers University)

“Bad Wars, Failed Nation Building, and the Retreat from Globalism”

討論：遠藤泰生（東京大学）

古城佳子（東京大学）

土屋和代（東京大学）

司会：西崎文子（東京大学）

共催：科学研究費基盤 (B)「現代アメリカ外交の『視座』形成過程をめぐる複合的研究」
（代表：西崎文子）／科学研究費基盤 (B)「トランスナショナルな紐帯を保持する
移民のホスト社会への編入～三つの最新事例～」(代表：高橋均)

III. 研究プロジェクト

- ・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (B)
「現代アメリカ外交の「視座」形成過程をめぐる複合的研究」(代表：西崎文子)
- ・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (C)
「19世紀中半のアメリカ合衆国における太平洋像とそこに映し出された合衆国理解の研究」
(代表：遠藤泰生)
- ・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (C)
「北米大陸史枠組み構築のための1812年戦争研究：双方向的把握の試み」
(代表：橋川健竜)

IV. 出版活動

- ・『CPAS Newsletter』Vol. 18, No. 1 (2017年9月)、No. 2 (2018年3月)
- ・『アメリカ太平洋研究』第18号 (2018年3月)

V. センター所属教員の2017年1月から12月までの研究活動

西崎文子

[学術論文]

- ・佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史 第3版』(有斐閣、2017年)第一章、第七章担当、31-72頁、279-324頁。
- ・「オバマ大統領広島訪問の歴史的意味」『歴史学研究』953号(2017年1月)、43-50頁。
- ・“Practicing American Studies in an ‘Age of Fracture’: In Search of a Context,” *Nanzan Review of American Studies* 38 (December 2016): 49-58.

[その他の執筆]

- ・エッセイ「トランプのアメリカ」『教養学部報』595号(2017年10月2日)。
- ・エッセイ「『民族自決の夢』を問い直せ」広井良典・大井浩一編『2100年へのパラダイム・シフト』(作品社、2017年)、65-67頁。
- ・対談〈フォーラム〉浅井基文・西崎文子・三浦一夫「トランプ米新政権と揺れる世界」『季論21』第37号(2017年夏)。
- ・対談「現実政治としてのポピュリズムと民主主義のゆくえ」水島治郎・杉田敦・小川有美・西崎文子『生活経済政策』244号(2017年5月)、3-17頁。
- ・解説「ケナンの語る冷戦史」『ジョージ・ケナン回顧録III』(中央公論社、2017年)、548-64頁。
- ・新聞記事「ひもとく 首相の真珠湾訪問」『朝日新聞』(2017年1月15日)。

[学会活動等]

国内学会

- ・パネリスト、共通論題「デモクラシーと世界秩序」、一般財団法人日本国際政治学会年次大会、2017年研究大会、神戸国際会議場、2017年10月28日。
- ・組織／司会、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター創立50周年記念シンポジウム「アメリカは今 歴史から政治へ」、東京大学駒場キャンパス、2017年11月12日。

[その他の研究活動]

- ・基調講演、シンポジウム「トランプの時代を考える——排外主義とどう戦うか」公益財団法人世界人権問題研究センター、京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都、2017年6月28日 [招待]。
- ・「歴史の中のアメリカ外交——『トランプ外交』の意味を考える」成蹊大学法学会講演会、成蹊大学、2017年6月21日 [招待]。
- ・「歴史から読むアメリカの『今』」、多摩大学寺島実郎監修リレー講座、多摩大学、多摩大学多摩キャンパス、2017年4月27日 [招待]。
- ・日本学術会議第一部会員(第23-24期)。

佐藤俊樹

[学術論文]

- ・「データを計量する 社会を推論する——「新たな」手法が見せる社会科学と社会」『社会学評論』68(2)、2017年、404–423頁。
- ・「リスク社会」日本社会学会理論応用事典刊行委員会編『社会学理論応用事典』（丸善出版、2017年）、4–7頁。
- ・「福祉国家の社会システム」同上、102–105頁。
- ・「消費される歴史」同上、112–115年。
- ・「意味と他者」同上、188–189頁。
- ・「意味と数理」同上、202–203頁。
- ・「機会の不平等とオッズ比・ハザード比」同上、460–461頁。
- ・「21世紀社会を読み解くためのキーコンセプト」同上、2–3頁。
- ・「規範と制度」友枝敏雄・山田真茂留編著『概念と命題で学ぶ社会学』（有斐閣、2017年）、100–103頁。
- ・「秩序問題」同上、190–193頁。
- ・「ウェーバーの社会学方法論の生成⑤——歴史の一回性と因果」『書斎の窓』650号、2017年、57–64頁。
- ・「ウェーバーの社会学方法論の生成⑥——適合的因果と反実仮想」『書斎の窓』651号、2017年、51–60頁。
- ・「もう一つの「不都合な真実」 書評：金成隆一『ルポ トランプ王国——もう一つのアメリカに行く』』『UP』536号、2017年、60–61頁。
- ・「伝承を探偵する 書評：高嶋幸次『奇想天外だから史実——天神伝承を読み解く』』『UP』542号、2017年、36–42頁。
- ・「『ピングドラム』は輪らない——幻想第三次の反転鉄道」『ユリイカ』49(15)、2017年、158–167頁。
- ・「人と性愛——極私論的『青い花』」『ユリイカ』49(20)、2017年、140–143頁。

遠藤泰生

[学術論文]

- ・「アメリカ近代史研究における公共性あるいは公共圏への関心と日本におけるその希薄」遠藤泰生編『近代アメリカの公共圏と市民』（東京大学出版会、2017年）、1–33頁。
- ・「あとがき」遠藤泰生編『近代アメリカの公共圏と市民』（東京大学出版会、2017年）、343–349頁。

[翻訳]

- ・デイヴィッド・D・ホール（著）「公共圏以前——近世イングランドおよび北米ニューイングランド植民地における異議申し立てと討議」遠藤泰生編『近代アメリカの公共圏と市民』（東京大学出版会、2017年）、221–248頁。

[その他の業績]

- ・ 追悼エッセイ「〈佐伯彰一文庫〉と『日米関係のなかの文学』のこと」『比較文学研究』103号（東大比較文学会）、148–152頁。
- ・ 「センタープロジェクト紹介」『CPAS Newsletter』vol. 17, no. 2（2017年3月）、8頁。
- ・ エッセイ「2017年1月21日“ウィメンズ・マーチ”——ヒラリーの敗北を乗り越えられるか」『CPAS Newsletter』vol. 18, no. 1（2016年9月）、1–4頁。
- ・ 「センタープロジェクト紹介」『CPAS Newsletter』vol. 18, no. 1（2017年9月）、8–9頁。

[学会活動等]

国際学会

- ・ コメント、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター創立50周年記念シンポジウム「アメリカは今——歴史から政治へ」、東京大学駒場キャンパス、2017年11月12日〔日本語〕。
- ・ 司会、“Transportation and Time Zones,” Pacific Gateways: International Symposium on English Literature and the Pacific Ocean, 1760–1914, Department of English, the University of Tokyo, Ito International Conference Center, November, 24, 2017〔英語〕。

国内学会

- ・ 講演「南北戦争の歴史と記憶——銅像は引き倒されるべきか」、我孫子シルクロードサークル、我孫子市民プラザホール（我孫子）、2017年12月16日。

[その他の研究活動]

- ・ アメリカ学会理事
- ・ 初期アメリカ学会理事
- ・ アメリカ研究振興会評議員
- ・ International Contributing Editor, *Journal of American History*
- ・ Editorial Advisory Board, *Journal of Australian American Studies* (Sydney U.)

橋川健竜

[翻訳]

- ・ ジョイス・E・チャプリン（著）「奴隷制の時代における天分の問題」遠藤泰生（編）『近代アメリカの公共圏と市民——デモクラシーの政治文化史』（東京大学出版会、2017年）、145–169頁。
- ・ デヴィッド・ジャフィー（著）「都市をまなざす——ブロードウェイと一九世紀ニューヨークにおける視覚の文化」遠藤泰生（編）『近代アメリカの公共圏と市民——デモクラシーの政治文化史』（東京大学出版会、2017年）、309–342頁。

[その他の業績]

- ・ 「『世界像』検討のおもしろさ——『『世界史』の世界史』論評」『世界史研究所ニューズレター』（NPO-IF世界史研究所）、30号（2017年9月）、6–10頁。

[その他の研究活動]

- ・アメリカ学会 評議員
- ・*The Japanese Journal of American Studies* 編集委員

寺川隆一郎

[学会活動等]

- ・報告「コモンズは大恐慌をどう捉えたのか——Takahashi, Shingo, 2017, “The Effect of the Great Depression on the Institutional Economics of John R. Commons (Draft)” へのコメント」進化経済学会、制度と統治研究部会、新潟大学、2017年1月15日。

佐藤雅哉

[学会活動等]

- ・報告「アメリカン・フェミニストのアラブ・イスラエル紛争——国連女性年会議を中心に」日本アメリカ史学会第39回例会（関西アメリカ史研究会共催）『『アメリカ外交史』研究の可能性』、京都大学、2017年7月8日。

グローバル地域研究機構運営委員会（2017年度）

大学院総合文化研究科・教養学部

(機構長・運営委員長)

(副研究科長)

(言語情報科学専攻)

(言語情報科学専攻)

(超域文化科学専攻)

(超域文化科学専攻)

(地域文化研究専攻)

(地域文化研究専攻)

(国際社会科学専攻)

(国際社会科学専攻)

(生命環境科学系)

(相関基礎科学系)

(広域システム科学系)

(機構)

大学院法学政治学科・法学部

大学院人文社会学研究科・文学部

大学院経済学研究科・経済学部

大学院教育学研究科・教育学部

大学院新領域創成科学研究科

東洋文化研究所

西崎文子	教授
高橋哲哉	教授
加藤恒昭	教授
星埜守之	教授
三浦篤	教授
岩本通弥	教授
石田勇治	教授
和田毅	准教授
古城佳子	教授
早川眞一郎	教授
佐藤直樹	教授
岡本拓司	准教授
梶田真生	准教授
遠藤泰生	教授
佐藤俊樹	教授
橋川健竜	准教授
森井裕一	教授
遠藤貢	教授
佐藤安信	教授
関谷雄一	准教授
高橋英海	教授
村松眞理子	教授
田辺明生	教授
木宮正史	教授
久保文明	教授
平野聡	教授
森肇志	教授
源河達史	教授
水島司	教授
本田洋	教授
諏訪部浩一	准教授
小野塚知二	教授
北村友人	准教授
中山幹康	教授
柳田辰雄	教授
長澤榮治	教授
佐藤仁	教授

以上、37名